

WAGNER AKADEMIE TOKYO 2013

R. WAGNER
Tristan und Isolde

2013年 7月9日 (火) 開演 18:30

《第1幕～第2幕前半》

10月3日 (木) 開演 18:30

《第2幕後半～第3幕》

日暮里サニーホール

ごあいさつ

本日は、ワーグナーアカデミー東京2013『トリスタンとイゾルデ』(演奏会形式)にお出かけ頂きありがとうございます。本日の会の主催者、そして指揮者としてご挨拶いたします。本日の出演者は全員、初めて『トリスタンとイゾルデ』に取り組みます。まず皆様に率直にお詫びいたしますが、今回の公演は上演時間4時間を超す『トリスタンとイゾルデ』を、こともあろうか第2幕の真途中で中断して、7月と10月の二回に分けて上演します。またオーケストラも9名の弦楽器奏者とピアノによる室内楽の編成です。演奏会形式ということで、主要キャストは楽譜を見ながら歌います。加えて、今ではごく一般的となっている字幕の提供もありません。しかし見方を変えれば、二回に分けて上演することにより、より多くの歌手にこのオペラを経験して頂く機会が増えました。もちろん我々もじっくりと勉強が出来ます。また室内楽の編成により、より細やかに歌手の声が聴けるはず。さらに字幕がないことにより、より音楽に集中してお聴き頂けるはず。私は、オペラは人生を通して楽しむものだと思います。ですから極端に言うと、全く白紙の状態でお聴いて何かを感じて頂き、その後にあらすじや対訳でオペラの内容を知り、あるいは本格的なDVDを見て、そして再び生の『トリスタンとイゾルデ』に戻って来て頂きたいと思えます。

このホール(日暮里サニーホール)は荒川区にあります。本日の主要な出演者は、あらかわパイロイトでワーグナーを経験した音楽仲間です。片寄純也さんは『パルジファル』のタイトルロール、池本和憲さん、福田祥子さん、大井哲也さん、田村由貴絵さんは『神々の黄昏』、升島唯博さん、上田純也さん、勝村大城さん、片山将司さん、明石将吾さんは『ラインの黄金』、また鳥谷尚子さんはあらかわパイロイト『魔笛』で、さらに望月一平さん、木野千晶さんは、前述の方々の推薦で今回ご出演頂きます。さらにコンサートマスターの三ツ木摩理さんをはじめとする弦楽器奏者の皆さんも、いつも我々とワーグナーを演奏している仲間です。2011年、あらかわパイロイトで私が『神々の黄昏』を指揮をしたとき、音楽現代誌で「日本人のみの出演者による史上2回目の上演」という紹介がありました。それくらい日本でワーグナーを歌う機会は少ないのです。確かに歌手にとってワーグナーは、すぐ歌えるものではありません。乱暴な言い方かもしれませんが、20~30代でしっかり声作り、体作りをして、40代になって初めてワーグナーを歌えると思えます。当然、音楽大学、もしくは二期会研修所くらいの段階で勉強する機会はないでしょう。また新国立劇場をはじめ、大きな公演では、主役の歌手は外国から招聘されますから、ますます日本人歌手にとって、遥かに遠い役になるのです。

このような状況の下、このワーグナーアカデミーの狙いは、才能のある人間がしっかりワーグナーに取り組んで勉強できる機会を提供することに尽きます。オペラは総合芸術であり、もちろん暗譜で歌い、舞台上で演じることが最終目標ですが、そのためには、まずしっかりと音楽を時間をかけて作ることが大切だと考えます。本日の公演は通過点ですが、近い将来日本や世界の大きな舞台で歌うであろう歌手たちの現在(いま)を証言していただけるとするならば、我々にとってこの上ない名誉です。ワーグナー自身の言葉、「あらゆる夢の中で最も美しい夢への記念碑」である、楽劇『トリスタンとイゾルデ』をお楽しみいただければ幸いです。

佐々木 修 / Osamu Sasaki / 指揮者 (両日)



武蔵野音楽大学卒業。オーストリア政府奨学生としてザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学指揮科に学び、カラヤン、チェリビダッケなどの巨匠に師事。同大学最優秀卒業、同大学オーケストラ常任指揮者をつとめる。1979年カラヤン国際指揮者コンクールに入賞。1982年ザルツブルク国際モーツァルト週間に東洋人の指揮者としてはじめてデビュー「心から自然でしなやか、新鮮なモーツァルト指揮者」(オペラ・コンツェルト誌)と高評を受ける。この演奏により、国際モーツァルテウム財団よりパウムガルトナーメダルを授与される。帰国後、各地のオーケストラや合唱を指揮する一方、NHKや民放の音楽番組のパーソナリティー、制作者など幅広く活動。近年は、あらかわパイロイトで、「ワルキューレ」「神々の黄昏」「ラインの黄金」と連続してワーグナーを指揮しており、音楽現代誌等で「黄昏のオペラ公演を指揮した3人目の日本人」「管弦楽団の演奏能力を最大限まで引き出し、全編を流れよく進めた」「新しい感覚のワーグナー像を提示」と高評を得ている。またプランナーとしては「ルナルナ★女性の医学」の創設者でもあり、マルチなタレントで活躍している。(株)マエストロ代表取締役



片寄純也 / Jyunya Katayose / トリスタン (7月9日)

国立音楽大学声楽学科卒業。「椿姫」アルフレード役に抜擢されオペラデビュー。これまでに「運命の力」ドン・アルヴァーロ役、「仮面舞踏会」リッカルド役、「ラ・ボエーム」ロドルフォ役、「外套」ルイーダ役、「蝶々夫人」ピンカートン役、「トスカ」カヴァラドッシ役、「カルメン」ドン・ホセ役、「こうもり」アルフレート役、「さまよえるオランダ人」エリック役、「ニュルンベルクのマイスタージンガー」ツォルン役など多数のオペラに主要な役で出演し、深みがあって力強く張りのある声と安定感のある歌唱で好評を博している。近年は、二期会公演「サロメ」ヘロデ王役、「パリアッチ」カニオ役、「パルジファル」パルジファル役で出演し、ヘルデンテノールにふさわしい力強さを持ち艶のある声と高い評価を得た。コンサートでは「第九」やモーツァルト「レクイエム」、「メサイア」のテノールソロとして出演し、いずれも好評を博している。二期会会員。



池本和憲 / Kazunori Ikemoto / トリスタン (10月3日)

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。日伊声楽コンクール入選後、藤原歌劇団、新国立劇場にて研鑽を積み、「蝶々夫人」のピンカートン役で新国立劇場にデビュー。その後同劇場「リゴレット」「トスカ」「イル・トロヴァトーレ」等で、世界的な歌手達と共演している。また、「キャンディード」総督役、「椿姫」アルフレード役、「ラ・ボエーム」ロドルフォ役、「トゥーランドット」カラフ役、「仮面舞踏会」リッカルド役、「カヴァレリア・ルスティカーナ」トゥリッドゥ等で出演。ベートーベン「第九」、「メサイア」等、オーケストラとの共演も多い。さらに、埼玉オペラ協会会長を長く務める一方、TV出演、リサイタル、レコーディング、合唱指揮等、多彩な活動を行っている。CD「マザーテレサの祈り」をリリース。近年はワーグナー「神々の黄昏」にジークフリート役で出演、ヘルデンテノールとして新境地を開拓した。藤原歌劇団団員。



福田祥子 / Shoko Fukuda / イゾルデ (両日)

大阪音楽大学ピアノ科卒業。大阪芸術大学大学院声楽専攻修了。第6回大阪国際音楽コンクール第2位。第1回東京国際声楽コンクール奨励賞。ジャンフランコ・パスティネ氏、森山京子氏に師事。あらかわパイロイトで、2010年「ワルキューレ」、2011年「神々の黄昏」と、それぞれブリュンヒルデ役で出演、「圧倒的にして鮮烈な歌声と存在感。生まれながらのブリュンヒルデ」(音楽現代)と絶賛される。2010年にリリースしたCD「イタリア・オペラアリア集」は、「日本にも真に世界にも通用する本格的なオペラ歌手誕生か。」(音楽現代)と推薦を受ける。近年は、シュテファン・モラー氏(ウィーン音楽大学教授)、ギレアド・ミシヨリ氏(フライブルク音楽大学教授)と、ウィーン、テルアビブ、東京等でジョイント・リサイタルを開催。現在、ウィーン国立歌劇場とバイエルン国立歌劇場で研修を受けている。東京二期会オペラ研修所54期本科主席修了。優秀賞受賞。ウィーン在住。



片山将司 / Masashi Katayama / マルケ王 (10月3日)

東京芸術大学卒業、同大学院修士課程修了。「魔笛」ザラストロ、「ドン・ジョバンニ」タイトルロール、「コジ・ファン・トゥッテ」アルフォンゾ、「ラ・ボエーム」コッリーネ、等のレパートリーを持つ。新国立劇場オペラ劇場に於いて、「エレクトラ」の年老いた下僕でデビュー。世界的にも著名な演奏家と共演。2011年小澤征爾音楽塾「フィガロの結婚」にキャストとして抜擢された。2012年5月、東京にて初リサイタルを行い好評を得る。ベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイア」、ハイドン「四季」、パッサ「マタイ受難曲」等で楽壇に立つ。ドイツ歌曲、ロシア歌曲にも精力的に取り組んでいる。日本声楽アカデミー会員。大妻多摩中学高等学校非常勤講師。



大井哲也 / Tetsuya Ooi / クルヴェナール (7月9日)

東京芸術大学音楽学部声楽科修了。同大学院修士課程オペラ専攻修了。二期会オペラ研修所第47期マスタークラスを優秀賞をもって修了。在学時よりパッサ・コレギウム・ジャパンの国内外の演奏とレコーディングに参加。小澤征爾音楽塾に第1回公演から参加している。ソリストとしてオペラ、宗教曲共にレパートリー多数。ドイツ、ミュンヘンに留学。ミュンヘン、サンクト・ウルスラにおいて『Bone Pastor』のバリトン・ソロを務める他、ミュンヘン、フィルハーモニー・コアマメンパーとして活動する。原田茂生、ジャンニコラ・ピリウッチ、ヴォルフガング・ブレンデル、浦野実成、浦野留女、ヨゼフ・ロイブルの各師に師事。現在桐朋学園大学嘱託演奏員。桐朋学園大学芸術短期大学演奏助手。おんがくの共同作業場指導者。コール・ブルマージュ、コール・ティアラ常任指揮者。二期会会員。



勝村大城 / Daiki Katsumura / クルヴェナール (10月3日)

武蔵野音楽大学声楽学科卒業、同大学大学院修士課程(声楽専攻)修了。国立ミュンヘン音楽大学大学院オペラコース修了。これまでに声楽を亀井陽二、クリストフ・ショップラー、ヨーゼフ・ロイブル、ガブリエーレ・フックスの各氏に、ドイツ歌曲をフリッツ・シュヴァインハンマー氏に師事。全日本学生音楽コンクール特別賞受賞、彩の国新人オーディション合格。これまでにオペラでは「フィガロの結婚」タイトルロール、アルマヴィーヴァ伯爵、「魔笛」パパゲーノ、「コジ・ファン・トゥッテ」グリエルモ、「ヘンゼルとグレーテル」ペーター、「真夏の夜の夢」ディミートリアス、「美しきエレヌ」アヤックス、「ラインの黄金」ヴォータンなどを歌って好評を博している他、パッサ「ヨハネ受難曲」、サン・サーンス「クリスマス・オラトリオ」などの宗教曲のソリストをつとめている。二期会会員。



田村由貴絵 / Yukie Tamura / ブランゲーネ (7月9日)

東京都出身。お茶の水女子大学及び東京芸術大学卒業、同大学院修了。2002年ニューウェーブ・オペラ「ポッペアの戴冠」オッターヴィアで二期会デビュー、その後も「ジュリアス・シーザー」(ジュリオ・チェザレ)題名役、東京二期会・ケルン市立歌劇場共同制作「ばらの騎士」「コジ・ファン・トゥッテ」(宮本亜門演出)で注目を浴びる。近年では2008年東京二期会「エフゲニー・オネーギン」(コンヴィチュニー演出)オルガ、2009年日生劇場「ヘンゼルとグレーテル」ヘンゼルで出演し、生き活きとした演唱で聴衆を魅了した。佐渡裕プロデュースオペラ「カルメン」(2009年、兵庫・東京・愛知の3都市開催)メルセデスで出演。2013年NHKニューイヤーオペラコンサートに出演。9月には愛知トリエンナーレ「蝶々夫人」に出演予定。二期会会員。



鳥谷尚子 / Shoko Toya / ブランゲーネ (10月3日)

鳥根県松江市出身。武蔵野音楽大学卒業。同大学院修了。平成23年度福井直秋記念奨学生。同大学学内選抜コンサート、卒業演奏会、レインボウ21サントリーデビューコンサート2012等出演。オペラでは、武蔵野音楽大学オペラコース試演会「フィガロの結婚」ケルビーノ役、武蔵野音楽大学オペラ公演「魔笛」侍女II役で出演。その他ベートーヴェン「第九」アルトソリストを務める。第2回東京国際声楽コンクール一般の部入選。第65回全日本学生音楽コンクール全国大会大学の部第1位、日本放送協会賞受賞。第83回都市対抗野球大会開会式にて国歌独唱。声楽を田口宗明氏に師事。現在、武蔵野音楽大学附属音楽教室講師。武蔵野音楽協会会員。



木野千晶 / Chiaki Kino / メロート & 牧童 & 舵手 (10月3日)

京都大学大学院工学研究科博士課程修了。関西二期会オペラ研修所第42期修了。東京二期会オペラ研修所第54期マスターコース修了。これまでに、東京シティオペラ協会「トスカ」カヴァラドッシ役、二期会ニューウェーブ・オペラ劇場「子供と魔法」ティーポット役、調布市民オペラ「トゥーランドット」パン役などに出演。その他、「コジ・ファン・トゥッテ」フェランド、「ドン・ジョヴァンニ」オッターヴィオ、「魔笛」タミーノ、「秘密の結婚」パオリーノ、「ボエーム」ロドルフォなどを演じる。宗教曲においてはJ.ハイドン「テレジアミサ」「パウケンミサ」などのソリストを務める。松岡重親、北村晶子、小林正夫の各氏に師事。東京二期会準会員。



升島唯博 / Tadahiro Masujima / 若い水夫 & 船員 (7月9日)

広島出身。エリザベト音楽大学声楽学部を卒業後2001年に渡独。デトモルト音楽大学とリュベック音楽大学で声楽ディプロムを取得、同大学院オペラコースを首席で修了。2008年にプレーメン歌劇場とソロ契約を結ぶ。2010年よりフリーのソロ歌手としてドイツ、ヨーロッパ各地の劇場にて客演。ハンブルク州立劇場にてヴィクトール・ウルマン「アトランティスの皇帝」、プレーメン歌劇場「魔笛」モノスタートス役、ハイデルベルク劇場「天国と地獄」マーキュリー役、オイティーン夏期オペラフェスティバル「道化師」ベッペ役、ミュンスター劇場「夢喰い小人」など、ドイツのジグシュピールを得意とした役柄を多く歌う。さらに、ミュンスター劇場でのモンテヴェルディ「ウリッセの帰還」や、リュベック劇場でのノルガルドの現代オペラ「神々しいチボリ」など、古典から現代までの広いレパートリーを歌う。現在は東京とドイツを拠点に活動中。東京二期会正会員、劇団四季外部契約。



明石将岳 / Shogo Akashi / 船員 (7月9日)

これまでに「魔笛」タミーノ・モノスタトス・武士・僧侶「コジファントゥッテ」フェランド、「メリーウイドウ」ダニロ、「こうもり」アイゼンシュタイン・プリント、「フィガロの結婚」バジリオ・クルツィオ、「椿姫」ガストン、「カルメン」レメンダード、「ジャンニススキッキ」ゲラルド、等でオペラ出演。弓町本郷教会でのカンタータシリーズや、サントリーホールでのコンサートシリーズ等に多数出演。福祉施設での演奏活動も積極的に行っている。金沢市出身。早稲田大学卒業。



上田純也 / Jyunya Ueda / 船員 (7月9日)

主役から脇役、悪役から三枚目まで幅広く演じる。これまで「トロヴァトーレ」伯爵、「仮面舞踏会」レナート、「運命の力」メリトネ、「魔弾の射手」カスパール、「真珠採り」ズルガ、「道化師」トニオ、「こうもり」フランク・フロッシュ、「ホフマン物語」悪役4役、「魔笛」モノスタトス、「ラインの黄金」アルベリヒ、等を歌う。マウロ・アウグスティニ氏のマスターコースを受講する。第3回東京国際声楽コンクール奨励賞。東京国際芸術協会会員。ガレリア座団員。



望月一平 / Ippei Mochizuki / 船員 (7月9日)

静岡県出身。常葉学園橘高等学校音楽科卒業、武蔵野音楽大学卒業、同大学院修士課程修了。平成24年度武蔵野音楽大学オペラ公演「魔笛」、パパゲーノ役でデビュー。これまでに「ドン・ジョヴァンニ」マゼット役、「テレジアスの乳房」プレスト役、「愛の妙薬」ドゥルカマール役、「チェネレントラ」アリドーロ役、「ラ・ボエーム」マルチェッロ役、「ファルスタッフ」フォード役、「ジャンニススキッキ」シモーネ役などで出演。「第16回静岡の名手たち」オーディション合格。合格者による演奏会に出演。また、ドイツ歌曲の演奏も意欲的に取り組んでいる。これまでに打田忠義、平良栄一、堀内康雄の各氏に師事。

～あらすじ～

『トリスタンとイゾルデ』 吉田 真 (出典:モバイル音楽辞典)

時と場所:中世の初め

開幕前の出来事:

トリスタンはイゾルデの従兄で婚約者でもあったモロルトを殺したが、その際自らも傷を負い、治療の秘術を知るイゾルデのもとにタントリスという偽名でやってきた。しかしイゾルデはトリスタンの正体を見抜き復讐をしようと剣をかざす。ところがトリスタンの目を見たイゾルデは彼を愛するようになり、その剣を落としてしまった。そのあとイゾルデはマルケ王の花嫁に選ばれ、この日、船でコーンウォールの城へ送られることになった。その舵手となったのがトリスタンであった。

〈第1幕〉前奏曲:冒頭はチェロとオーボエによる「憧れの動機」で始まる。この幕で、トリスタンとイゾルデが媚薬を飲んで眼差しを交わし、愛に目覚める場面の音楽である。その先は、時折ためらいを交えながら、「愛の情熱」がうねるように進行する。やがて寄せては返す大波のような「法悦の動機」が次第に高まり、頂点に達したところで急速に減衰する。低弦による暗い静かな音楽となり、二つのピツィカートで「前奏曲」が終わると幕が上がる。

第1場:アイルランド王国からブリテン島南西部コーンウォール王国へ向かう船の上。アイルランドの王女イゾルデがコーンウォールのマルケ王の妃となるべく、侍女のブランゲーネを伴って船でコーンウォールに向かっている。

第2場:イゾルデを護送しているのはマルケ王の甥で忠臣のトリスタンだが、彼はかつてイゾルデの婚約者モロルトと決闘し、これを倒したものの、重傷を負って偶然イゾルデに命を救われたことがあった。

第3場:トリスタンはタントリスという偽名を名乗ったものの、イゾルデは正体を見抜き、この婚約者の仇を愛してしまったのだった(タントリスの歌)。

第4場:トリスタンと愛の黙契を交わしたと信じるイゾルデは、彼がいまや自分を主君の妃にしようとしていることに腹を立て、償いとして彼に心中を求める。

第5場:トリスタンはこれを受け入れ、二人は毒薬をあおるが、それはブランゲーネがすり替えていた愛の薬だった。コーンウォール到着を目前にして、たがいに押し殺していた二人の愛の炎は燃え上がる。

〈第2幕〉第1場:コーンウォールのマルケ王の城の庭。マルケ王と結婚させられたイゾルデだが、王が夜の狩りに出かけるというので、ひそかにトリスタンを城に呼び寄せる。ブランゲーネを見張りに立て、イゾルデが松明を消すと、胸を躍らせてトリスタンがやってくる。

第2場:二人は抱き合い歓呼の声を上げるが、やがて寄り添って座り、昼を呪い夜を讃えながら、長い陶酔の時を過ごす(愛の二重唱)。ブランゲーネの警告も全く耳に入らない。※

二人の愛の高まりが絶頂を迎えようとした瞬間、突然明かりがともされ、トリスタンの親友だったはずのメーロトがマルケ王を連れて乱入してくる。

第3場:メーロトの訴えのとおり、忠臣と王妃の裏切りの現場を目の当たりにした王は衝撃を受け、嘆き悲しむ(マルケ王の嘆き)。トリスタンはあえて弁明をせず、イゾルデを「夜の国」へと誘い、メーロトに決闘を挑むと、わざと彼の剣に身を投げ出して、傷つき倒れる。

〈第3幕〉第1場:フランス北西部のブルターニュ地方、カレオールにあるトリスタンの城の庭。重傷を負ったトリスタンを従者のクルヴェナルは故郷のカレオールに運んだ。死を願いながらも幼年時代に想いを馳せるトリスタン。彼の傷を治すことができるのはイゾルデだけだが、彼女はなかなか到着しない。やがて見張りをしていた羊飼いが、舟が近づいてくることを報告する。クルヴェナルの目にも船が近づくのが見える。トリスタンはイゾルデが乗っている印の旗が立っていることを聞いて喜ぶ。

第2場:クルヴェナルがイゾルデを迎えに行っているあいだ、トリスタンは重傷の身を顧みず狂喜乱舞するので、イゾルデが到着するが早いか、こと切れてしまう。嘆き悲しむイゾルデ。

第3場:そこへマルケ王の一行もやってくるので、乱心したクルヴェナルはメーロトを討ち取り、自分も戦死する。マルケ王はブランゲーネから事情を聞いて、二人を許しに来たのだったが、死者たちを前にして嘆く。やがて放心状態のイゾルデが立ち上がり、トリスタンへの愛を歌いつつ静かに息を引き取る(イゾルデの愛の死)。(幕)

※7月9日の公演では「ブランゲーネの警告」まで、10月3日は「愛の二重唱」から上演する。

楽劇『トリスタンとイゾルデ』
 演奏会形式・言語[ドイツ語]上演
 作曲・台本：リヒャルト・ワーグナー
 指揮：佐々木 修
 言語指導：升島唯博
 主催：ワーグナーアカデミー東京
 共催：株式会社マエストロ
 ディーヴァ株式会社
 協力：日本橋オペラ研究会
 東京国際芸術協会

〈配役〉	〈7/9 (火)〉	〈10/3 (木)〉
トリスタン	片寄純也	池本和憲
イゾルデ	福田祥子	福田祥子
マルケ王	—	片山将司
クルヴェナル	大井哲也	勝村大城
ブランゲーネ	田村由貴絵	鳥谷尚子
メーロト&牧人&舵手	—	木野千晶
若い水夫 & 船員	升島唯博	—
船員	明石将岳	—
船員	上田純也	—
船員	望月一平	—

ワーグナーアンサンブル

1st ヴァイオリン： 三ツ木摩理
 (コンサートマスター)
 上原千陽子
 2nd ヴァイオリン： 佐藤 茜
 岡崎晶子
 ヴィオラ： 力久峰子
 中村紀代子
 チェロ： 中田鉄平
 谷口宏樹
 コントラバス： 鈴木 智
 イングリッシュホルン： 上田 恵 (10月3日)
 ピアノ： 小滝翔平 (7月9日)
 河合良一 (10月3日)

予告：

WAGNER AKADEMIE 2014

2014年5月18日(日)日暮里サニーホール

さまよえるオランダ人第2幕 ジークフリート第3幕